

フクロウ *Strix uralensis* Pallas

【選定理由】

平野部から丘陵地および山間部の林に周年生息し繁殖するが、営巣に必要な樹洞のある大木が少なくなっており、生息条件が悪化している。

【形態】

全長 50cm。頭部から上面は褐色で、後頸から背にかけて暗褐色の縦斑があり肩羽と雨覆の先端に白斑がある。嘴は黄色。下面は淡褐色で胸に褐色の縦斑がある。顔盤があり暗褐色の斑で縁どられ、羽角はなく、虹彩は暗褐色。尾は長めで濃褐色の太い横縞がある。



愛知県豊田市, 1994年5月1日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

ヨーロッパ北部および東部からオホーツク海西岸、アルタイ地方、モンゴル北部、中国北部および東部、サハリン、朝鮮半島に生息する。日本では、九州以北に周年生息する。国内では、亜種エゾフクロウ *S. u. japonica*、亜種フクロウ *S. u. hondoensis*、亜種モミヤマフクロウ *S. u. momiyamae*、亜種キュウシュウフクロウ *S. u. fuscescens* の4亜種に分けられる。

県内では、平野部から丘陵地、山間部の林に周年生息する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

主に大木の樹洞で繁殖するが、地上で営巣することもある。主として夜間に、農耕地や造林地あるいは河川敷などで、ノネズミやモグラなどの小型哺乳類のほか、鳥類、カエル、昆虫などを捕食する。ゴロスケホッポオと鳴く。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

平野部から丘陵地、山間部の大木が残る林に生息し、山麓の雑木林や社寺林などを好む。本種の生息には、営巣のための樹洞がある大木、休息および巣立雛を育成する場としての背後林、採餌のための開けた農地等が必要であるが、都市化や工業団地等の開発、それに伴う道路建設によりこうした環境が減少している。

【保全上の留意点】

社寺林など大木がある林を中心に、背後の山林および周辺の農耕地を含め、生息環境を一体的に保全することが望ましい。また、繁殖の可能性がある場所においては、巣箱を設置するなど、営巣環境を整備することが有効と考えられる。

【特記事項】

西三河地方を中心に、1991年以降フクロウ用の巣箱の設置が取り組まれており、成果が確認されている。

【関連文献】

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.88. 文一総合出版, 東京.
杉山時雄, 1998. フクロウ用巣箱の必要性. 西三河野鳥の会研究年報 VOL.1, pp.11-12. 西三河野鳥の会, 豊田市.